資料２

「教育のまち　あくね」をめざして

教育委員会

１　全小・中学校

⑴　特別支援教育の一層の充実　→　「阿久根市自立支援教室」の新設等【新規】

ア　阿久根小学校と阿久根中学校に「阿久根市自立支援教室」を新設し、市内全小・中学校の児童生徒の希望者について通級を可とする。

イ　学習指導支援員（教員免許状保有者）を配置し、一人一人の児童生徒の状況等に応じた、きめ細かな指導・支援を行うことができるようにする。

⑵　小学校における外国語教育の一層の充実【継続】

ア　鶴川内中学校の英語科教員（ＳＥＴ加配）が、市内の全小学校の児童に指導を行う。

イ　対象学年（３年生～６年生）については、各小学校の要望により対応する。

⑶　ＩＣＴ教育の一層の充実【継続】

ア　タブレットの家庭への持ち帰りを可とする。

イ　学校への登校等に困り感のある児童生徒に対しては、オンラインにより授業等を実施する。

２　折多小学校、脇本小学校、三笠中学校

⑴　小中一貫教育の導入【新規】

ア　小中一貫校の形態

施設分離型（現在の学校を維持して取り組む形態）

イ　めざす小中一貫教育

(ｱ) 同じ中学校区の小学校と中学校が、校区の子供たちの学びや育ちについて、共通の教育目標や課題意識を共有し、連携・協働を図りながら一層確実にその目標達成や課題解決を図ることをめざす。

(ｲ) 同じ中学校区の教職員が、校区の子供たちの学力・体力・豊かな心などについて、その実態を互いに共有し、そこから明確になる課題や設定した目標の解決・達成に向かって、計画的・組織的に取り組む。

ウ　具体的取組

(ｱ) 学習面

○　折多小学校・脇本小学校の低学年について：多層指導モデル（ＭＩＭ：ミム）の実践【新規】

- 多層指導モデル（ＭＩＭ：ミム）とは、小学校低学年を中心に、特殊音節をはじめとする、語の正確で素早い読み、流暢性のある読みを実現することを目的とした学習指導モデルである。
- 指導と評価をリンクさせて一人一人の児童の伸びを捉え、つまずきの早期把握、早期支援、個に応じた指導を行い、特殊音節をはじめとする語の読みの確実な習得を行う。
- 「流暢な読みを獲得することが、ひいては読解力へつながる」との考えのもと、個に応じた指導を行い、すべての子供の学びを保障する。

※　次のように、小さい文字や伸ばす音について読みの力を育成する。

「きって」「いしや」「おばあさん」など

↓

正しく読めない、書けない。

↓

すべての学習に影響する。

↓

小学校低学年での「読み」の学習支援を行う。

↓

多層指導モデル（ＭＩＭ：ミム）

○　脇本小学校の５・６年生について：教科担任制の導入

・　音楽科について、三笠中学校音楽科教員が脇本小学校の５・６年生の児童に指導を行う。

○　三笠中学校の全学年について

・　技術科について、脇本小学校教員が三笠中学校の全学年の生徒に指導を行う。

○　３校の共通実践

・　道徳科について、３校の教職員が共通理解・共通実践を行い、児童生徒の道徳的実践力等の育成を図る。

(ｲ)　文化面

３校の児童生徒が、伝統芸能「山田楽」の取組を通して交流を図る。

(ｳ)　体育面

三笠中学校の陸上部の生徒が、計画的に折多小学校と脇本小学校を訪問し、児童の実技指導・支援を行う。

※　これらの取組で成果があったものについては，令和６年度から，他校でも実施できるようにする。

⑵　小・小連携の取組

ア　小学校間の連携を図るため、脇本小学校に教員を加配する。

イ　算数科について、脇本小学校の教員が自校の５・６年生の児童に指導を行うとともに、折多小学校の６年生の児童に指導を行う。

３　鶴川内小学校の教科指導【新規】

○　鶴川内中学校の社会科教員が、鶴川内小学校の６年生の児童に指導を行う。

４　鶴川内中学校の教科指導【新規】

○　阿久根中学校の技術科教員が、鶴川内中学校の全学年の生徒に指導を行う。